

# 富国強兵と殖産興業（1）

新政府の初期の産業政策は、工部省の鉄道事業に代表されるように官業独走の傾向を示した。ただし、海運・貿易面は岩崎弥太郎などの特定商人に担わせつつ、内務省の官営模範工場によって民間産業の育成にも努めた。これら「殖産興業」の究極の目的は、「富国強兵」を促し、日本を欧米列強に比肩させることにあった。

## ○比肩のための標語

### ●旧交通制度と旧商業制度の廃止

新政府は、江戸時代の次の制度を廃止した。

- ①交通：関所・宿駅・助郷の廃止  
 ②商業：株仲間の廃止

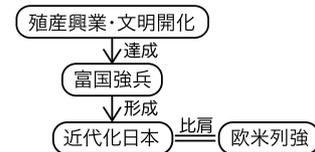


図1 富国強兵と殖産興業

### ●近代化産業の展望と指導者

新政府は、日本を欧米列強と肩を並べる近代国家にするため、  
 経済発展と軍事力強化を目指す標語<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ を掲げた。

- (1) 達成のための具体的政策の1つが、産業育成<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ である。  
 ⇒(2) には、外国人教師、所謂<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ の技術指導を仰いだ。



図2 お雇い外国人クラーク

## ○近代化産業の育成

### ●工部省の推進

1870年、<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ が新設され、鉄道・鉱工業・郵便などの推進を司った。

#### <鉄道敷設>

1872年、最初の鉄道が<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ (東京)・<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ 間に敷設された。

#### ◇イギリス人モレルの指導で敷設

#### <鉱山>

佐渡金山・生野銀山などの鉱山、高島・三池などの炭鉱を政府経営(官営)とした。

#### <造船所>

長崎造船所(元長崎製鉄所)・<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ (元横須賀製鉄所)など、  
 旧幕府の施設を拡充し、官営の造船所とした。

#### <郵便>

1871年、<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ の立案で、飛脚に代わる官営の郵便制度が発足した。

- 全国均一料金制による書状・荷物の確実な郵送を可能にした。  
 ⇒1877年、日本は万国郵便連合条約に加盟し、国際郵便の強化を図った。

#### <電信>

1869年、東京・横浜間で<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_ 事業が開始され、電報が取り扱われた。

- ⇒数年間で長崎と北海道まで架設、さらに長崎・上海間の海底電線で欧米に接続された。

#### <海運>

<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_ が経営する会社<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_ (郵便汽船三菱会社)を保護した。



図3 八ツ山下を走る汽車

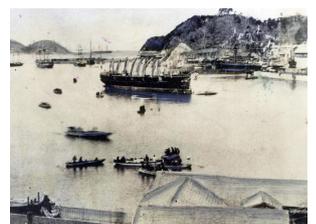


図4 横須賀造船所



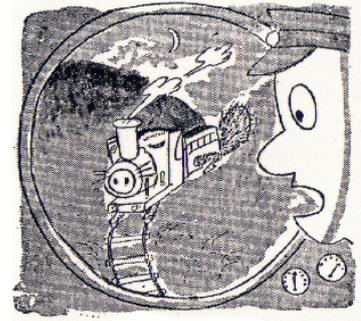
図5 前島密の郵便切手



図6 横浜電信局内部

## 文明の利器とタヌキの衝突—偽汽車

古来、日本人は山・森・原野などを「異界」と捉え、人里と異界の間に、見えない「境界」を設けた。そして、人が境界に近づくと、異界の魔物から攻撃されると考えた。故に、怪異談は境界を舞台にする。明治時代、新橋・横浜間の鉄道敷設に、品川の「八ツ山」が開削され、線路が山を貫通した。ある夜、汽車が「八ツ山下」に近づくと、別の汽車が突如現れ、向かってきた。衝突の瞬間、別の汽車はフッと消え、後日確認するとタヌキが一匹死んでいた。この偽汽車は、鉄道網の拡張に合わせ、全国で目撃された。



## ●内務省の推進

1873年、<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_ が新設され、官営模範工場経営・農畜産業振興などを司った。

◇(12) …大蔵省・工部省の事務の一部を引き継ぎ、初代長官（内務卿）は<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_  
…地方行政・警察行政も統轄

### <製糸>

新政府は、開国以来の主要輸出品<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_ の品質改良と大量生産を可能にするため、1872年、フランス人ブリューナの指導の下、群馬県に<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_ を設立した。  
⇒(15) は、民間での技術・機械導入促進に、政府が経営した<sup>(16)</sup> \_\_\_\_\_ で、士族の子女など（工女・女工）が技術習得をした。



図7 富岡製糸場

↓  
1877年、第1回<sup>(17)</sup> \_\_\_\_\_ が上野で開かれ、工場の機械が展示された。

### <農畜産業>

東京に<sup>(18)</sup> \_\_\_\_\_ や三田育種場を設置し、西洋式技術の導入を図った。

### <北方開発>

1869年、蝦夷地を<sup>(19)</sup> \_\_\_\_\_ と改称し、開拓・行政機関<sup>(20)</sup> \_\_\_\_\_ を置いた。  
⇒1874年、長官黒田清隆の立案で、士族救済の就業奨励策<sup>(21)</sup> \_\_\_\_\_ も兼ねる、開拓とロシアからの防備にあたる農兵<sup>(22)</sup> \_\_\_\_\_ を置いた。



図8 屯田兵

↓  
1876年、<sup>(23)</sup> \_\_\_\_\_ を開校し、お雇い外国人<sup>(24)</sup> \_\_\_\_\_ を招いてアメリカ式の大農場制度・農畜産技術の導入を図った。



図9 札幌農学校

↓  
1882年、一定の開拓達成で(20)を廃し、函館・札幌・根室の3県を置いた。

⇒1886年、3県を廃して、行政官庁<sup>(25)</sup> \_\_\_\_\_ を置いた。

## 多民族国家「日本」の再認識—先住民アイヌ

北海道の開拓は、アイヌの生活圏侵害と窮乏化を伴った。1899年、アイヌの保護を目的に、北海道旧土人保護法が制定された。しかし、同法は農業の強制など、アイヌ文化の否定と和人に同化させる側面もあった。1997年、同法はようやく撤廃され、新たにアイヌ文化振興法が制定された。ただし、振興法にも問題が指摘されており、先住民であるアイヌへの理解が一層求められている。

